

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471900100		
法人名	有限会社 ブレイクスルー		
事業所名	グループホーム 楽居		
所在地	〒728-0017 広島県三次市南畑敷町488番地3		
自己評価作成日	平成25年7月8日	評価結果市町村受理日	平成25年8月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201		
訪問調査日	平成25年7月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方が早くに施設に慣れ親しんで頂けるように支援し、馴染まれておられる。排泄管理を行うことをきちんと理解し、体調管理を行っている。
冬場には、体に優しい暖房設備の中で、ゆったりとした生活を送って頂いている。
各月毎にイベントを計画し、ご利用の方に楽しんで頂けるようにしている。
毎月の病院受診や状況に応じた受診を行い、健康で健やかな生活を送れるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同法人の事業所(通所、高齢者賃貸住宅)等が併設されていて、それぞれの利用者さん達との交流を図る事が出来る。又、新興住宅地であるが周辺には商店も多く利便性が良い。「自分らしく、ほっこり、ゆったり」という理念を全職員に意識づけし、日々穏やかに生活出来る様取り組まれている。一番の楽しみである食事に関しても常に一人ひとりの希望を取り入れ食の大切さ楽しさを味わってもらい、その中で持てる力を発揮できる場面作りをされ機能維持に努めている。防災に関する意識を高く持ち、地域の消防団との連携が図られ細やかな指導を得、消防計画、避難経路、緊急連絡網等を作成し地域との協力体制強化と職員の意識向上にも取り組み、的確な状況判断で落ちついた対応が出来る様周知し、安心した暮らしの確保に努めている。又、職員の優しい笑顔と清潔感のある家庭的な雰囲気のある事業所である。今後期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしく、元気でゆったり、ほっこり、のんびりと過ごして頂きます」の理念を目標とした、目標管理制度に取り組んでいる。	目につきやすい場所に掲示し、職員一人ひとりが常に理念に基づいたケアを実践する様声かけやミーティング等で周知し、理念に沿ったケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設イベントの案内を行うようにしている。また、入居者の散歩や買い物等であう時は、声をかける様にしている。地域の敬老会等にも参加している。	敬老会に参加したりボランティアの受け入れなども積極的に行っている。また、事業所の秋祭りには近隣の方の参加も得られ顔なじみの関係が出来、地域の一員として交流に努めている。今では気軽に声かけもしてもらい良い関係が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度実施し、活動状況の報告をはじめ、意見交換をしながらケアの内容の充実と地域に根差した施設づくりに努めている。	家族、市議員、地域代表、民生、行政、近隣の事業所等の参加の下、状況報告をする中で沢山の意見や要望また助言が得られ、有意義な会議となっている。特に災害面では貴重なアドバイスや協力が有り協力体制の充実が図られた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時において、市職員等と連絡を取り合い、介護保険に関する事などを確認し、サービスの向上に努めている。	認定更新の機会に実情やサービスの取り組み状況、確認事項、困難事例等についてアドバイスや情報提供を得、連携を図る様になっている。また、包括支援センターとの関係は築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各利用者様の居室には鍵が設置してあるが、玄関や居室は解錠状態で運営している。身体拘束の廃止については、職員も十分に理解し、やむなく行う場合はご家族の同意を得るようにしている。	外部研修に参加し事業所内で研修報告を行い全職員に周知し禁止の対象となる行為を正しく理解し安全面に配慮しながら、抑圧感のない暮らしの支援に努めている。帰宅願望の強い場合は散歩や言葉かけの工夫等で対応されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議等で定期的に啓発している。また、研修会にも参加し、事業所内での防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者の権利擁護は、個別において必要な状況が生じれば積極的に支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時において、契約や解約等の内容について入居者やご家族に分かりやすいように担当責任者から十分な説明を行い、理解・納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見及び苦情BOXを各階に設置し、寄せられた意見等については、十分な検討を行い、運営に反映するようにしている。 今回問い合わせが1件あり、市職員と連絡を取り合い、内容説明を行い理解を得れた。	ケアプラン作成時や訪問時、状況報告の中で聞き取るようにしている。意見や相談事項については検討し個々に対応すると共に運営にも反映させている。常に意見が出やすい雰囲気づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見等は随時に受けている。 会議やフロア会議等もその機会とし、運営に反映するように努めている。改善点の大小に関わらず本社と連携を取りながら、改善に努めている。	フロアミーティングや日々のケアの中で聞き取り、ミーティングで話し合い統一ケアに心掛けると共にそれらの意見は反映させている。年1回運営者との個人面談もある。日ごろからコミュニケーションを図るよう心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務に特段の支障が出ないことを前提に、可能な範囲で調整に努めている。各職員に担当利用者を設定して、日々のケア方針の面談を行い、モチベーションの向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会に可能な限り参加し、ケアの質の向上に努めている。また、研修参加者は自施設内において勉強会を含めた報告会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームや他施設の方々との意見交換の実施や、同じ悩みでの研修会に参加をし、情報を共有している。また、防災面において、連絡体制を築くことができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至る過程において、担当責任者と本人と十分に話をした上で、不安や要望等に対応するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用に至る過程において、担当責任者とご家族と十分に話をした上で、不安や要望等に対応するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にしっかりと話を伺った上で、他のサービスを含め、本人及びご家族に対する考えられる支援について情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、これまでの生活の継続性を重視した役割作りにも努めている。その中で、個人を尊重し、互いに支えあう関係作りにも努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設の方針として、入居者に対しては常に家族とともにある支援を心掛けており、日々ご協力を頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族のみならず、昔からの友人・知人の面会も行ってもらうことで、馴染みの関係が途切れないように配慮している。	友人の方が訪問されたり、友人宅へ行かれたり、柔軟に対応し関係継続に努めている。また、家族と共に自宅やホテル等に宿泊される事もある。できるだけお盆やお正月には自宅で過ごせるよう家族の協力を得ながら支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話好きであったり、世話をやくのが得意な方に協力して頂く事で、互いの存在が認識できる場面を作るようにしている。その中で支えあえるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された場合には、見舞いがてらに訪問し、関係作りを継続している。又、転居された方には、機会を設け、訪問するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を一部取り入れたアセスメント様式を活用し、本人の意向を把握に努めている。また、1対1の場面を作ったりして、本人の要望を聞くようにしている。	寄り添い会話の中で把握したり、一対一の散歩や入浴時等何気ない話の中で思いを聞く事が有る。買い物や食べ物等の要望が有り、可能な限り思いを叶えてあげる様務めている。帰宅願望の方には家族の協力を得る働きかけをする事もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及びご家族、サービス提供事業者からの情報を基に生活歴を確認し、その人らしい暮らしが送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況の観察及び記録を基に、全職員で情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及びご家族の意向と日々の各種ケア記録及び担当職員の意見を踏まえたプランを作成している。また、状況の変化や本人及びご家族の意向に沿い、定期及び随時に計画の見直しを行っている。	基本情報やアセスメントを基に暫定プランを作成し、担当者会議、ミーティングで話し合い、家族の意見を反映させ利用者主体のプランを作成している。3ヶ月毎にモニタリングを行い日々の状況を記録しミーティングで検討し定期的に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録や経過表を全職員が目を通し情報の共有に努めている。また、記録を基にした計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状況に応じて、所属している看護師等の専門スタッフからアドバイスを受けることで柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の必要性に応じて各分野からの協力が得られるように働きかけを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族の意向でかかりつけ医を設定し、定期的な往診及び医療機関への受診を受けようとしている。また、受診の際には、職員も同行・帯同し適切な医療が受けられるようにしている。	個々のかかりつけ医との連携を取り受診記録も作成し安全かつ適切な医療支援体制が出来ている。協力医療機関の往診もある。歯科も協力医療機関となっている。受診結果に特変が有る場合は特に詳しく家族へ報告する様周知している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状況に応じて、所属している看護師に相談し、その状況にあった適切な看護処置を行ってらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	24時間体制の医療連携体制は整っており、入院時においても主治医と密接な情報交換を行い、早期治療に向けた取組みを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時契約でアナウンスを行うが、入居者の状況に応じて、ご家族と主治医及び職員と話し合いを行い、終末期の対応について検討を行っている。	利用開始時重度化や終末の対応については説明されている。状況変化により、医師、看護師、家族、職員で話し合い共に協力しながら支援する体制づくりをされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生については、マニュアルに沿って対応している。応急手当や初期対応については、必要に応じて随時に看護師より指導・処置を受けようとしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災及び防災避難訓練を実施している。また、地域の消防団とのホットライン及び近隣のグループホームとの連絡共同体制の関係を築いている。	運営推進会議の中でアドバイスを、地域の消防団との連携が図られ、消防計画や避難経路、緊急連絡網等を作成され協力体制の強化が図られている。また近隣の事業所との協力や外部研修にも参加し、様々なプロセスについて学び職員にも周知し慌てず対応出来る様取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の尊厳を大切にし、受容と傾聴を常に心がけるように職員に向け啓発している。帳表類に関しては、個人情報保護の観点に基づき適切な管理を行っている。	職員の意識向上の為、自己評価を実施したり、研修も行い、馴れ合いになっても言葉かけや入浴、排せつ介助時等、プライバシーを損ねない対応に心掛ける様日々周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ自然な感情や思いが表現できるように個々に合わせた支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日を楽しく過ごせるように、出来るだけ本人のペースや要望に沿えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には、外に出るの理容サービスを受けるようにしているが、美容師資格取得者による施設内理容も行っている。その際には希望する髪型を伺い対応してもらっている。また、年2回の衣替えを行ってもらい、季節にあった身だしなみをして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	状況に応じて、準備から片付けまで出来ることは職員と一緒に手伝って頂くようお願いをしている。また、味付けの決定も行ってもらっている。	力量により下ごしらえや盛り付けなど職員と共にされている。身体状況により食事時間や形態にも配慮し、食材の話や食べたい物の希望を聞いたり、会話も多く楽しい時間となっていた。できる限りその人の持てる機能を活かす支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の指示の基で、利用者の上k条において対応しているが、基本的には、個別に量の調整や食事形態の変更等の対応を行っている。水分量は1200cc～1500cc/日を目安に確保してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	適切な口腔ケアが及ぼす健康維持への効果を理解し、毎食後には必ず口腔ケアを実施している。自立の方に対しても、必要に応じて声かけを行い、口腔内の確認を行っている。また、状況に応じて、歯科への受診も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に排泄パターンに沿った対応を心掛けている。また、できる限りトイレでの排泄を促している。またオムツの必要な方には、職員間で十分な検討を行い、その状況にあった対応を行っている。	一人ひとりに沿った時間帯でトイレ誘導され生活習慣やその人の残存機能を維持するため出来るだけトイレでの排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、個々の排泄状況及び食形態、水分摂取量の内容に常に気を配っている。また、1日の活動量も踏まえ、排便間隔及び便の形態を常に確認するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日毎に入浴の対応を決めているが、拒否の場合は無理をしないようにし、タイミングが合えば入浴してもらうようにしている。その場合の時間や曜日の変更は柔軟に対応している。	曜日や時間帯は決められているが、身体状況や希望で柔軟に対応している。拒否の方には声かけを工夫し週1回は入浴してもらえよう支援し清潔保持に努めている。清拭で支援する場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて、休息場所や寝具類の検討を行っている。また、メンタル的な不安要素等に関しては、安心していただけるまで付添を行い、傾聴している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、全入居者の服薬目的及び内容を理解し、適切な服薬支援に努めている。また、誤薬防止の観点から、複数人による確認体制と、個人別に服薬をお渡しし、服薬されるまで確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操や歌、塗り絵等のアクティビティーや洗濯物たたみや菜園の水やり等の家事を、個々の状況に応じて負担にならないように配慮しながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物や外食等は、事前の計画に沿って支援をしている。また、要望があれば職員が同行し買物にも出かけている。また、施設の買物において、可能な限り一緒に出かけるようにしている。さらに、面会時等のご家族同伴の外出も要望があれば行っている。	個々の希望を把握し、外出計画を立て、遠出の外出(道の駅等)や買い物、外食、ドライブ、散歩等に出かけ、気分転換や外気に触れる機会を持つように努めている。家族の協力で自宅に帰る事もあり、楽しみ支援にもつなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者個人による直接的な金銭管理は行っていないが、希望する商品があれば可能な範囲で一緒に買い物に行くようにしている。また、商品購入要望のみでも購入し、お渡しするように支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状等、利用者の方の状況に応じて対応している。電話連絡を希望される方には、その都度施設の電話をしようして対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が集うリビングの採光は適切で、日中は明るい雰囲気を感じることができる。ソファ等も設置しつろげる雰囲気になっている。各箇所の清掃は毎日行っており、清潔感を維持している。	家庭的な玄関で共有空間も清潔に保たれ、季節感のある装飾品や外出時の写真も飾られ明るく又、思い思いの場所で過ごせるソファ等も置かれ嫌な匂いもなく快適に過ごせる配慮がされている。食事の準備の音や匂いで五感刺激となると共に生活感のある家庭的な雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各フロア共にテーブル及び椅子を設置したスペースが2ヶ所、ソファを設置したスペースが1ヶ所あり、入居者のそれぞれの想いにより自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に昔馴染みの身の回りの物や家具。調度品等を持ち込んで頂くようにしている。また、ポスター等も壁面に飾れるようにしている。	個々のドアの横にポストが有り、家族からの便りが届く喜びが実感できる。また、馴染みの物もあり個々の想いの配置で快適に過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内及びトイレ、浴室には手すりを整備し、安全な生活が送れるようにしている。また、バリアフリーであり、福祉用具の使用も支障はなく、エレベーターの使用により階層を行き来することができる。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	重度化及び看取りに関する指針について	重度化及び看取りに関する指針の内容を職員間で共有できるように努め、尊厳に十分配慮した終末期の介護を行えるようにしていく。	施設内研修や各ユニット会議において、全職員に周知できるように努める。また、医療のバックアップ体制を充実させるために協力病院との連携強化、往診医師の充実を図る。職員・家族に対しての勉強会の継続開催を行う。	12カ月
2	35	緊急事態対策について	誤嚥・窒息・心肺停止等の様々な緊急事態に則した具体的訓練を、専門職との連携を含めた形で定期的に行い、全職員が知識だけでなく技術として身につくような取り組みを行う。更に定期的に緊急時の対応についての勉強会を開催し、知識と技術を習得する。	定期的に行うように計画を立てる	6カ月
3	13	職員のレベルアップ	職員の技術及び知識の向上に努める	・各ユニット会議で時間を作り、施設内研修の時間を設けるようにする。 ・外部研修や他施設への実習等への参加機会を設け、職員に働きかける。	12カ月
4	14	個人情報・プライバシー保護について	プライバシー保護、個人情報保護法等の研修会実施時、必ず議事録を残すようにする。	プライバシー保護、個人情報保護法の研修記録物を残すとともに、定期的に勉強会を行い、全職員への意識づけに努める。特に、退職職員に関して、情報漏洩のないよう採り決めるを行う。	6カ月
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。